

「生き生きとコミュニケーションを図る児童の育成」

～楽しい外国語活動を取り入れた授業実践を通して～

I 研究の内容

1 研究の目標

外国語活動を通して、外国語や外国文化に慣れ親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、国際社会でたくましく生きる力を養う。

2 研究の具体的内容と方法

(1) 研究の内容

- ア 外国語活動のための教材「英語ノート」を活用した授業実践
- イ コミュニケーション能力の素地に関する評価の観点及び評価方法
- ウ 児童の興味関心等の学習状況の変容に関する定量的な把握及びアンケート調査
- エ 指導力向上のための理論研究と研修
- オ ALT や外部講師の効果的な活用
- カ 他の小学校中学校との連携
- キ 外国語活動推進体制の確立

(2) 研究方法

- ア 授業研究（4年・5年・6年）
- イ 検証資料 ・ 児童の意識調査（児童アンケート、感想文）
・ 指導者の見取り（児童の行動観察《発言・反応等》）

3 具体的実践

(1) 理論研究

「新しい学習指導要領案の改訂に関わって」

「英語ノートの効果的な使用法」

「評価規準の作成について」

講師：県教育庁義務教育課指導主事 立川 武 様
 峡東教育事務所指導主事 小林俊彦 様

「外国語活動年間指導・授業案作成について」

講師：山梨大学准教授 田中武夫 様

(2) 実態調査の実施

6月、12月 外国語活動における児童の意識調査

(3) 授業実践

- ア 中学年ブロック
 - ・ 第4学年 総合的な学習の時間「フレッド先生の国 まるごと大発見！」
授業者 丸山 枝里子
- イ 高学年ブロック
 - ・ 第5学年 外国語活動「数で遊ぼう」
授業者 三森公仁 フレデリック・デ・コンダバ
 - ・ 第6学年 外国語活動「できることを紹介しよう」
授業者 深澤真人

II 成果と課題

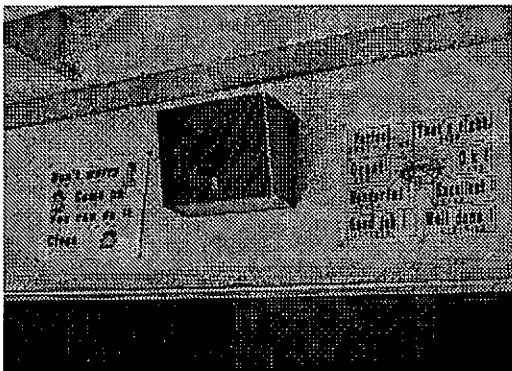
1 成果

- 外国語を通して、子どもたちが相互に学び合いながら楽しくコミュニケーションを図ることができた。
- 指導主事を招いての理論研究、総合的な学習の時間、外国語活動における授業実践など研究を深めることができた。
- イングリッシュルームを設置したり、行事ごと壁面掲示を整えたり、環境を整えることができたことで、外国の文化や言語の関心を高めることができた。
- 英語ノートや電子黒板を有効活用し、授業に活用することができた。
- 個人カルテや自己評価カードを用いたことによって、個の変容を見取ることができた。
- 児童の興味関心を見取るための項目立てがしっかりしてあったので、たくさんの角度から児童の変容を見取り考察もしっかり行うことができた。
- 授業研究を通して、外国語活動の進め方、ALT とのチームティーチングの仕方など学ぶことができた。
- 新しい学習指導要領にもとづいた外国語活動の年間指導計画の作成にあたり、改訂の趣旨やポイントを学習したことで、完全実施に向け体制を整えることができた。
- 学級担任と ALT とが役割分担しながら効果的な活動ができ、児童の活動も活性化された。
- 月の歌やクラスルームイングリッシュなど、学校全体で雰囲気づくりに取り組むことができた。
- 他の小学校や中学校と連携しながら指導計画や授業案を作成することができた。

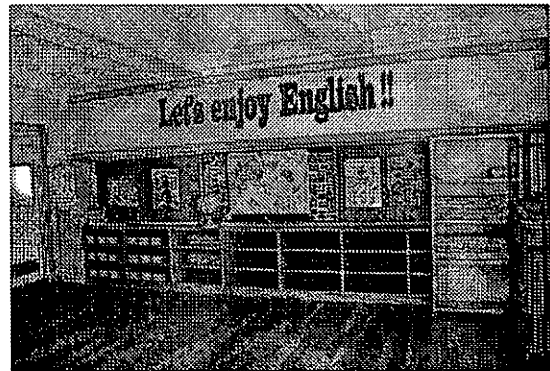
2 課題

- 評価の観点や方法について研究を進め、他者評価、相互評価も検証していけるとよい。
- ALT 以外の外部講師活用の仕方を考えていきたい。
- 授業研究を中心に、クラスルームイングリッシュ等具体的な指導力を伸ばしていく研修を考えたい。
- だれでも無理なく外国語活動を実践できる教材・教具を整備していく必要がある。

III 成果物



教室壁面掲示



イングリッシュルーム設置

(研究主任 本宮 知子)